

(事後評価)

三世代サポート型佐大女性研究者支援

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：佐賀大学（総括責任者：佛淵 孝夫）

プロジェクトの概要

研究者及びその候補者が必要としている支援及び、子ども、老親を含めた三世代に支援を行うことで、女性研究者が意欲をもって研究を継続してその能力を発揮できる環境の整備を行う。

三世代支援事業を統括する「かささぎサポート・ラボ」を設置し、研究者育成（キャリア支援部門）支援事業と研究者支援（育児支援部門、介護支援部門）事業組織を作り、それぞれに支援専門スタッフ（コーディネーター）を配置する。

①キャリア育成支援のために「カッチー・サロン」を設置し、WLB 啓発活動による意識改革への取り組み、キャリアコーディネーターを配置し、キャリア形成支援、キャリア相談支援を行う。②育児コーディネーター（有資格者）を配置し、病児・病後児保育及び学童保育等の基盤を整備し、病児・病後児保育の開始と学童保育のトライアル実施を進めるとともに、育児相談支援を行う。③介護コーディネーター（有資格者）を配置して、在宅・近距離・遠距離介護の軽減化を図るための介護支援相談、介護支援講座・介護予防講座などを開講し、ライフステージに応じた支援を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者支援において、本人と子供に加え親も含めた三世代を念頭においた特色ある支援体制を整備したことが評価できる。特に、介護相談窓口の設置等の介護支援は他機関へのモデルとなる波及効果が期待できる取組であり、また、病児・病後児保育施設の新設

は女性研究者の高いニーズに対応した取組である。今後は自然科学系部局との連携を強化し、自然科学系分野の女性研究者の採用を増加させることを期待する。

・**目標達成度**：三世代サポート型支援が効率的に実施され効果を上げており評価できる。しかしながら、女性研究者比率の目標値が達成できておらず、また、学童保育の整備が十分ではなく、今後の改善策の検討を期待する。

・**取組の内容**：三世代サポート型支援の取組、特に介護支援の取組が女性研究者のニーズを踏まえた取組となっており評価できる。

・**システム改革の成果**：女性研究者の科研費取得比率が向上するなど研究業績が大幅に向上する成果が表れており、大学執行部への女性の登用も進んでいる。介護支援の取組は他機関への波及効果が高く、県との連携により地域における男女共同参画の先導的な試みとなっており評価できる。今後は、自然科学系分野の女性研究者を増加させるためのシステム改革を期待する。

・**実施体制**：女性研究者支援室の設置により、全学的支援体制を整備している点が評価できる。一方、女性研究者の少ない自然科学系部局のコミットメントが見えにくく、部局間の連携体制の強化を期待する。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：学長のリーダーシップ、専任コーディネーター等を配置した男女共同参画推進室の体制、予算的裏付けがあり、取組の継続性・発展性が確保されており評価できる。今後は、自然科学系部局との連携強化を期待する。